

演 者：**米谷 耕平 (Kohei Kometani) 博士**

マックスプランク研究所 (Freiburg)
免疫学・エピジェネティクス学センター
Rudolf Grosschedl 研究室 ポスドク研究員

Title：**B 細胞白血病発症における転写因子 EBF1
の役割 (*Ebf1* haploinsufficiency in B cell leukemia)**

日 時： 2016 年 6 月 17 日 (金) 13:30～14:30

場 所： 大阪大学大学院 生命機能研究科
ナノバイオロジー棟 3 階セミナー室

B 細胞分化に必須の転写因子 EBF-1 の発見で知られる Grosschedl 研での研究をご紹介します。

要旨 転写因子 Early B-cell factor1 (EBF1)は正常造血において B 細胞の分化ならびに維持に必須の因子である。しかしながら非正常時、とりわけ造血系腫瘍発症における働きに関してはよく知られていない。一方、ヒト B 細胞急性白血病患者においては *EBF1* の片アリル欠損がしばしば報告されている。また *EBF1* と同様に B 細胞分化に必須の転写因子である *Pax5* も同時に欠失している例が報告されている。そこで、*EBF1*, *Pax5* の欠失が B 細胞白血病に何らかの役割を果たしている可能性について検証するために、モデル系として *Ebf1*(+/-);*Pax5*(+/-) 二重ヘテロ接合体マウスを用いて解析を行った。その結果、このマウスは生後約半年後以降にプロ B 細胞を起源とする B 細胞急性白血病を発症した。また、この白血病は生存と増殖を IL-7-STAT5 経路ならびに一炭素代謝系の一つ葉酸経路に依存していることが分かった。本セミナーでは *EBF1*, *Pax5* の発現が適正に維持されないと何が起こるのかということについて論じたい。

参考文献：

- 1) Boller and Grosschedl; Immunol. Rev. (2014)
- 2) Boller et al.; Immunity (2016)
- 3) Treiber et al.: Immunity (2010)

講演は日本語で行われます。

連絡先：大阪大学大学院 生命機能研究科／医学系研究科・医学部 幹細胞・免疫発生研究室

長澤 丘司 Tel: 06-6879-7967

